

て明るく開けた田和への分岐となるが、田和への道は廃道のような。さらに明るい道をゆるやかにアップダウンし、藪をかき分けて進むと甲州・郷原と武州・数馬を分ける④西原峠に出る。かつては大きな茶店があったはずの広場のような峠には朽ちかけた丸太のベンチが一つあるだけだ。

峠からわずかに登ったところが⑤榎寄山の山頂だ。三頭山へ続く広い山頂には大木が茂り、この先は別の領域のようにも見える。次は三頭山に登ってみよう。西原峠へ戻ったら左折し、自然林の道を下っていく。楽しい坂道が続くが、えぐられた土の道は歩きづらい。右手に大岳山と馬頭刈尾根も見え、国定忠治が遠見した木と書かれた小広場に出る。この先にも深く切れ込んだガレ混じりの土道が現れる。ここも慎重に下っていき。やがて植林の道となり、畑の間の急坂を下り、民家の脇を抜けて林道に出る。あとは道なりに下れば⑥仲の平バス停に着く。すぐ先には日帰り温泉、数馬の湯がある。(写真・文=樋口一成)



朱色が印象的なフシグロセンノウ。花期は7～10月

[サブコース・チェック]

三頭山から逆コースで笛吹へ下る

都民の森から鞘口峠もしくは三頭大滝経由で三頭山へ登り、笹尾根を下って榎寄山から逆コースで笛吹へ。歩行距離が長く、歩行時間5時間50分と少々ハードだが、一気に三頭山へ登りつめれば、あとはのんびりとした尾根歩きが楽しめる。途中の峠道はエスケープルートとして使えるが、なかには廃道もあるので、しっかりした道標にしたがって下山しよう。

